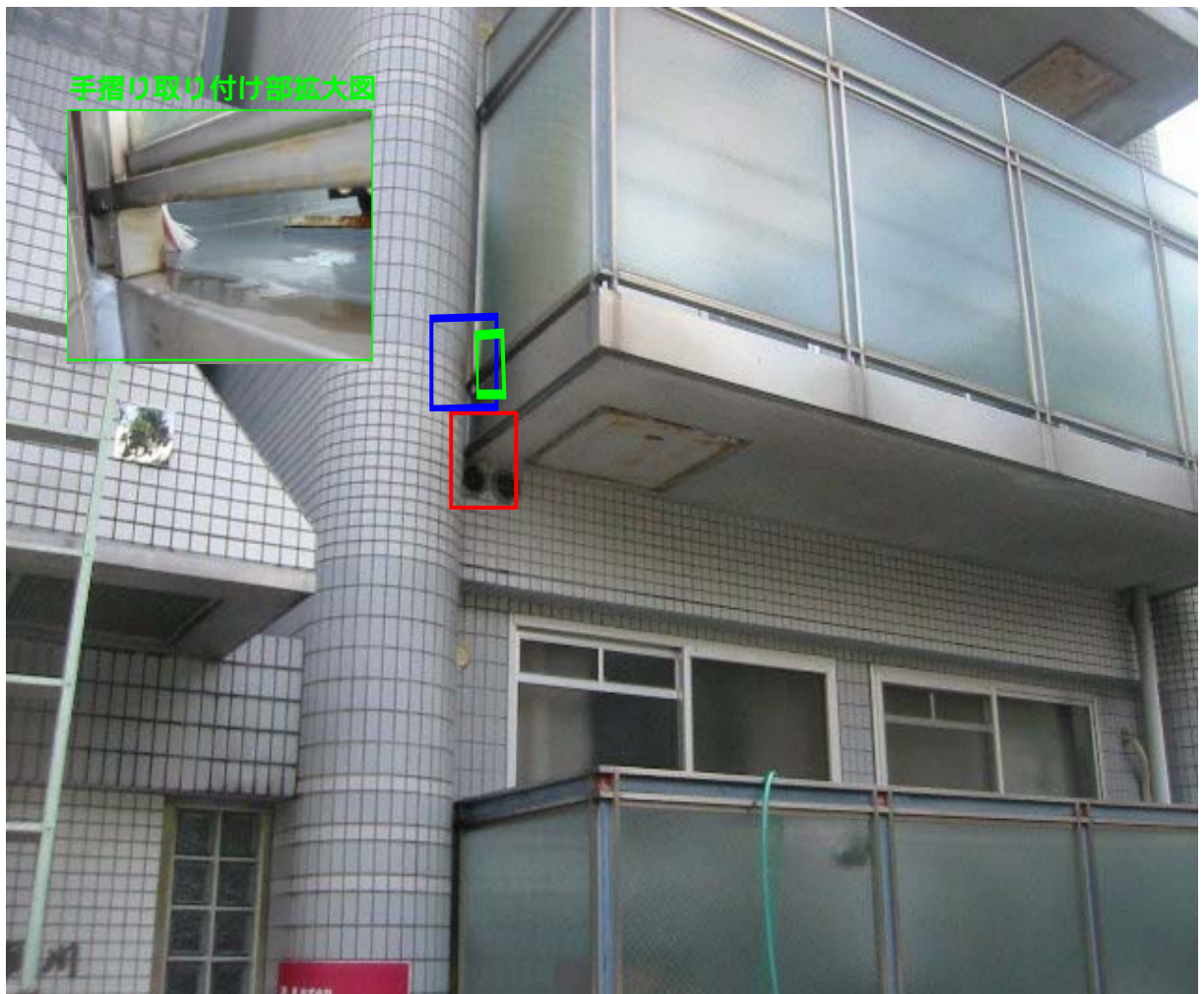


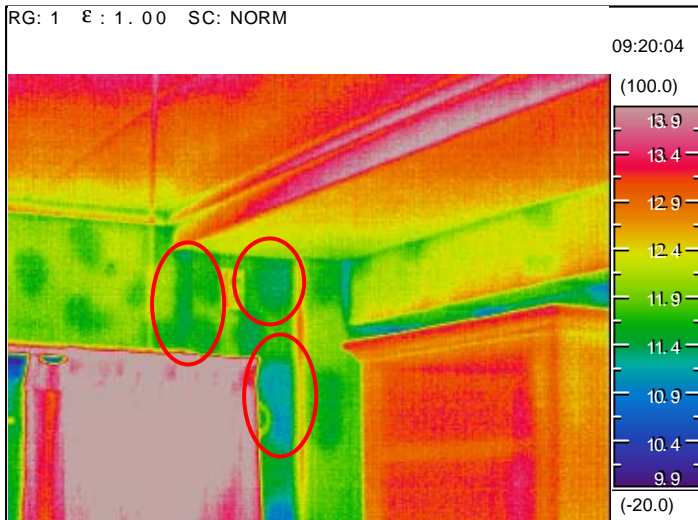
漏水調査報告書				作成	20XX年4月7日
対象物件	種類	マンション	所在地	西宮市	
計測日時	20XX年3月29日		天候	晴れ	
概要	サーモグラフィ法により建物の表面温度を計測し、その結果から漏水箇所を特定する。放水によりぬれた表面が充分乾燥した後も低温部となっている箇所は、水が浸入し水分が滞留していると考えられる。				
方法	建物に放水し、放水前と放水後の温度分布を計測する。				
症状	・104号室和室サッシ部より漏水。				

放水箇所



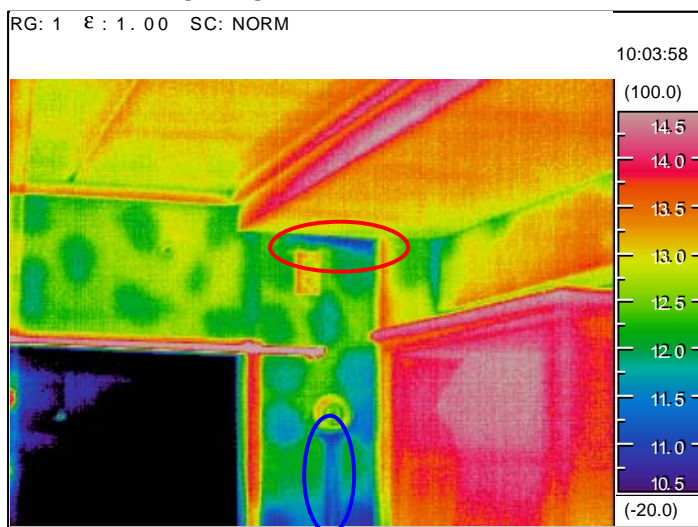
- ・ 印部分 - 1 回目放水円柱-バルコニー間（屋内漏水なし）
- ・ 印部分 - 2 回目放水円柱 - バルコニーのコーキング上（漏水発生）
- ・ 印部分 - 3 回目放水 2 F バルコニー手摺り取り付け部に集中（漏水発生）

放水前（室内）



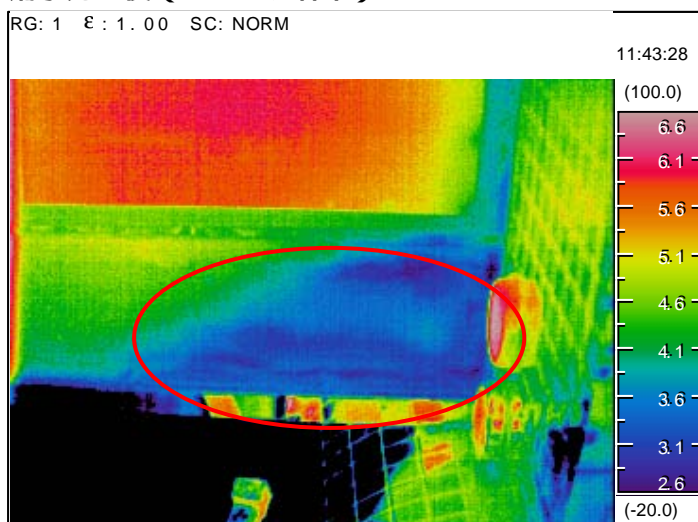
- ・放水前の状態で既に○部に以前の浸水による低温部が確認できる。
このことから浸水箇所は、この個所の上方と推測できる。

2回目放水後（室内）



- ・2回目放水後に印部分に浸水してきたのが確認できる。
位置から推測して上部換気用ガラリからの浸水が考えられる
エアコンダクトの印部に、出水が発生したが、熱画像上で上部浸水箇所との関連性は見受けられず。
ダクトキャップの取付け口から直接浸水したと思われる。

漏水発生後（ベランダ軒下）



- ・印部分に水が浸入し滞留している。
ここに滞留した水が換気用ガラリに流入していると推測する。

調査結果

今回のサーモグラフィ装置による調査結果を下記に報告する。

- ・ 漏水浸入口
2 Fバルコニー手摺取り付け部



- ・ 浸水経路
2 Fバルコニー手摺取り付け部から浸入し、バルコニー軒に滞留した水が左側換気口より屋内の内壁面へ落ち、屋内に浸入した水は壁内滞留するものと、にサッシ上部を横に走りサッシ枠から出水すると思われる。
- ・ 2 頁の 2 回目放水後熱画像の 印部分の低温部は、ダクト口と壁面の間から水が浸入したと思われる。



- ・ 部分は水の浸入経路